

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	社会心理学(Social Psychology)		授業コード	E035251
担当教員名	山本 義史		科目ナンバリングコード	E31003
配当学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件				
受講心得	遅刻、講義中の携帯電話の使用、おしゃべり、無断外室など、他の学生に迷惑のかかる行為は禁止です。大学生として最低限のマナーは守って履修してください。			
教科書	未定			
参考文献及び指定図書	社会心理学への招待 白樫三四郎(編著) ミネルヴァ書房 社会心理学—個人と集団の理解 吉田俊和・松原敏浩(編著) ナカニシヤ出版			
関連科目	コミュニケーション演習、発達心理学、臨床心理学			

授業の目的	人間は「社会」で生活し、さまざまな人と関わっています。社会心理学はこのような人間のすべての行動を対象にしています。例えば、他者がいるから「自己」を意識し、その意識の強さや性質は個人によって異なります。また、2者関係から家族、仲間、クラブ、学校、会社(組織)、地域などでの人々の考え方、行動の仕方の違い、集団の特性など、私たちは他者がいる環境で日常的に多くの現象と出会い、対応しています。現代社会では、人間行動は多様化しており、個人の社会的行動だけでなく、集団や地域としての人間行動に関する知識と対処能力、基礎的な知識を応用して柔軟に対応することができる態度と技術の習得が求められます。ビジネス場面为例にあげると、さまざまな相手との交渉、かけひき、集団内・集団間での立場の認識が必要になります。本講義では、このような個人、集団、地域における人間の社会的行動を学習していきたいと思えます。
授業の概要	講義に心理学実験を取り入れたものです。毎回ワークノートを用意します。それに記入しながらパワーポイントでの解説行っていきます。授業終了時に課題が出ますから、毎回ショートレポートを書いて提出します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：オリエンテーション 講義の進め方を説明し、社会心理学とはどのような領域を扱っているのかお話しします。	ワークノート・ショートレポートの提出
第2週：自己 自己とは何か、そして自己概念や自己評価がどのように形成され、それが対人関係におよぼす影響を考えていきます。	同上
第3週：社会的認知 人は他者や事象をどのように捉えていくのでしょうか。そこにかかわる人間の能力と思考の問題についてお話ししていきます。	同上
第4週：態度 人の行動形成に影響を与える態度について、持続・変化などの側面を概説します。そこから人を動かす心理やセールスなどのテクニックといった身近な話題を考えてみましょう。	同上
第5週：対人魅力 なぜ人は他者を好きになるのでしょうか？ここでは好意が形成される原理について考えてみたいと思えます。	同上
第6週：対人コミュニケーション 私たちの生活でコミュニケーションは欠かせないものですが、その構造や種類、さらにはメディアの問題などを考えていきます。	同上
第7週：社会的影響 人の行動形成に影響を与えるものとして、他者などの存在があげられます。私たちがどのようにして他者から影響を受けるのか、またどのようにして他者に影響を与えることができるのか、そしてその効果などについてお話ししていきます。	同上
第8週：向社会的行動と反社会的行動 私たちの行動のなかには人を助けるものと人を傷つけるものがあります。それぞれの行動形成と社会的影響について考えていきます。	同上
第9週：集団過程	

私たちが所属する集団には様々な大きさ、かたち、役割などがあります。それらがどのように形成され機能していくのか概説していきます。		同上
第10週：パーソナリティと役割 人のもつ性格について、人格心理とは違った立場から捉えていきます。		同上
第11週：環境 私たちの生活する空間と、それが人に与える影響について考えていきます。		同上
第12週：世論と投票行動 成人となった学生には選挙権があります。自分の行動が直接世論にも影響を与えていきます。その効果と投票行動に与える要素についてお話します。		同上
第13週：群衆・流言 群集と集団はどこが違うのでしょうか。また、デマや噂など人の心を惑わす言語的要素についてお話していきます。		同上
第14週：犯罪 反社会的行動の延長線とも言える犯罪行為について、その要素とこれまでの流れなどをお話します。		同上
第15週：まとめ これまでのまとめをします。		同上
第16週：期末試験		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	人間の相互作用と社会行動に関心を持ち、自分の行動にひきつけて考えるようになります。
【知識・理解】	個人と社会の関係が考えられるようになります。社会心理学の知識を得て、日常生活に応用してみるようになります。
【技能・表現・コミュニケーション】	日頃の相互作用や社会生活に使えるようになります。
【思考・判断・創造】	学習した知識と思考・判断・創造性で、賢い社会生活が送れるようになります。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		60点		
【知識・理解】 ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	40点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				
(「人間力」について)				
※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	